

平成 28 年度 JERT 主催救急撮影講習会（横浜）参加報告

済生会横浜市東部病院 放射線部 藤森 章史

平成 29 年 2 月 12 日、鶴見大学にて開催された救急撮影講習会を受講しました。

私自身、これまでも機構主催の講習会や研究会などには参加しており、医師や診療放射線技師による講義の聴講経験はよくありますが、今回は臨床工学技士による講義が聴講出来るとあって楽しみにしていました。

救急診療に携わる者として PCPS や IABP がどのような機器であるのかは漠然と知っていましたが、流量補助と圧補助という明確な役割を理解する事ができました。また、V-A ECMO = PCPS である事や V-V ECMO、BiPAP など、まさしく「救急診療に必要なキカイたち」について理解する事ができたと感じています。今後はわたくしだけかも知れませんが、非常に取っつき難く感じている心電図についての聴講機会があれば嬉しいです。

また今回の講習会で特に印象深かったのは、一般撮影の講義でした。ある部位の撮影を行うために患者体位をした事によって他部位の病体を悪化させてしまったという経験を実際の画像を供覧して教えて頂いた。救急診療では教科書通りの写真が必ずしもよいものとは言えず、その検査がオーダーされた意義を理解し、且つ二次損傷を与えない様な撮影法を選択して、最適な画像を提供することが重要であるという事を再認識できました。

講習会を通して、救急診療では時間を意識して検査を行い必要な画像をいち早く提供する事が重要であると改めて理解する事ができました。講習会のテーマでもあった - 「*Time is Life*」 - を意識する事で、Golden hour や Golden period の実施に協力できるような働きをしていきたいと考えるよい機会でした。

